報　告

2024年７月

NPO法人都市生活コミュニティセンター

小規模多機能型居宅介護事業所パンセ武庫之荘ホーム管理者：池田啓一

2023年度の事業所自己評価の為、小規模多機能居宅介護事業所パンセの職員全員に記入表（尼崎市提供）を配布し、記入してもらいました。（2024年３月）

その概要を次の通り、報告します。

記入表のファーマットを別途添付します。

記入表の大項目は

Ⅰ―理念に基づく運営

Ⅱ―安心と信頼に向けた関係作りと支援

Ⅲ―その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ―その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

小項目は全体で５５項目になっています。

小規模多機能事業所の運営にあたって各職員が気を付けるべき内容が幅広い角度から示され、その実践の状況を各職員が自身で振り返ることになるものと受け止めています。

以下にいくつか特徴的なところをご紹介いたします。

１―当法人事業所ではそれぞれの職員が介護や看護の専門資格を持って職務に当たっており、職員としての経験ということもありますが、基本的なところは理解しており、概ね出来ているあるいはそうしようと努力していると例年通り回答しています。

２―当法人としてあるいは当事業所としての考え方を各職員に理解してもらう為、「パンセ事業所の理念を実践に活かす」とする一覧表を作りました。抽象的な言葉である理念を日常の業務場面に落とし込み、それぞれの場面でどんな考え方でケア業務に臨むのかを全ての職員に提示しました。今後の課題はそれをどれほど身のあるものにしていくかです。

３―利用者様ごとの状況に応じた丁寧なケア、健康面への配慮などが求められることから職員間の情報連携は重要です。そのために日直制度の運用などしています。パートタイム労働の方も多いため、丁寧な情報連携の仕組み作りが必要であると考え、ケア業務に関わる全ての職員が参加する月次の全体会議を同内容で２回開催することにしました。その結果、概ね全ての職員がこの会議に参加するようになりました。

その上で更に現場の運営力を向上させていく取り組みが継続的に必要です。

４―職員の介護技術の向上は大事な課題です。コロナ禍にあるため、集合研修の機会を作りにくい状況が続いていますが、ネットを活用した研修の仕組みを活用するなどしています。

今後は例えば普段利用者様に提供している薬についての基礎知識をテーマにしたものなどの業務の研修を予定しています。

５―利用者様の当事業所の過ごし方として健康チェック、食事、入浴、排泄のお世話などが基本的なものとなりますが。この間、コロナ禍にあったこともあり、リクリエーションの分野が十分ではありませんでした。その部分で各職員から取り組みを強めたいとの指摘がありますので、課題として準備を始めています。

以上